

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

—ブラジャーについて—

A Survey of Measured body size and Redymade Clothing size

—On the Brassiere—

中 野 慎 子

1 はじめに

消費者は既製衣料を購入するに際して、当然のことながら、身体に適合したものを購求しようとするであろう。こうした適合度の高い衣料を購入するには、消費者自身が自己の身体寸法と適合サイズを把握する必要がある。

そこで今回は、身体に最もフィット性を必要とするブラジャーについて、アンケート調査と同時に身体計測を実施し、身体寸法と着衣表示サイズ・JISサイズの関係について検討を試みた。

2 調査方法、および、身体計測方法

1) 調査対象、および、被験者

被服専攻の短期大学生 227 名。

2) 実施期間と方法

実施期間は、昭和62年5月上旬と昭和63年5月上旬。

方法は、アンケート調査と同時に身体計測を行なった。なお、アンケート調査は集合調査法によったため回収率は100%であった。

3) アンケート調査内容

①自己身体寸法に対する認識

②着衣表示サイズ

③適合度

④購入時

⑤着衣時

⑥着衣目的

⑦所持枚数

⑧着衣開始年齢

⑨J I Sサイズ認識度

4) 身体計測方法

被験者は、ブラジャーとガードルを着用し、ウエストには計測ベルトを巻いた。姿勢は立位正常姿勢とした。計測項目は、J I Sで基本身体寸法として用いられている身長・体重・胸囲・腰囲の他、必要な部位を加え14項目とし、計測を行なった。

3 結果, および, 考察

3-1 アンケート調査の結果

①自己身体寸法に対する認識

身長・体重・バスト・アンダーバスト・ウエスト・ヒップの6項目について、自己の認識する身体寸法（自己申告寸法）を記入させた。なお、「知っている」項目には寸法を、「知らない」項目には斜線を引かせた。

結果は図1に示す通りである。身体寸法に対する認識度は、身長は93.4%と極めて高く、次いで、体重の81.1%、そして、ウエストの72%とバストの70.9%はほぼ同程度であった。また、ヒップは62%、アンダーバストは55.9%であった。今回の調査研究で必要とするアンダーバストのサイズの認識度の低さが注目される。

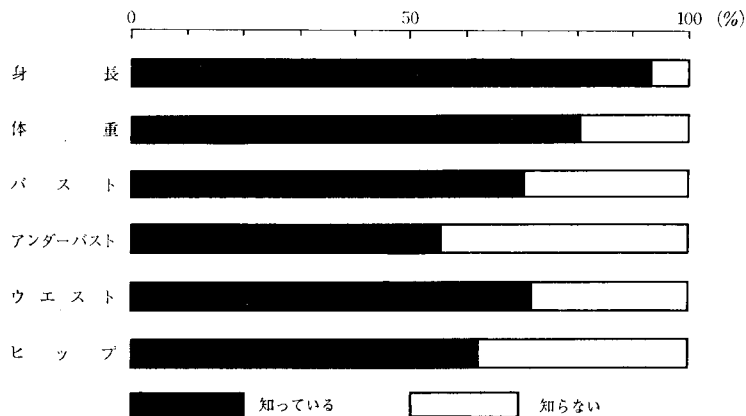


図1 身体寸法と認識度

②着衣表示サイズ

調査当日に着衣していたブラジャーの表示サイズを記入させた。

結果は図2に示す通りである。着衣表示サイズはA A70からD80までの分布がみられた。

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

最も多いのは、A70とA75で、全体の54.2%と被験者の半ばを占めている。次いで、B75の16%、そして、A80・B70はそれぞれ8%、その他は、2.2%から0.4%に過ぎない。

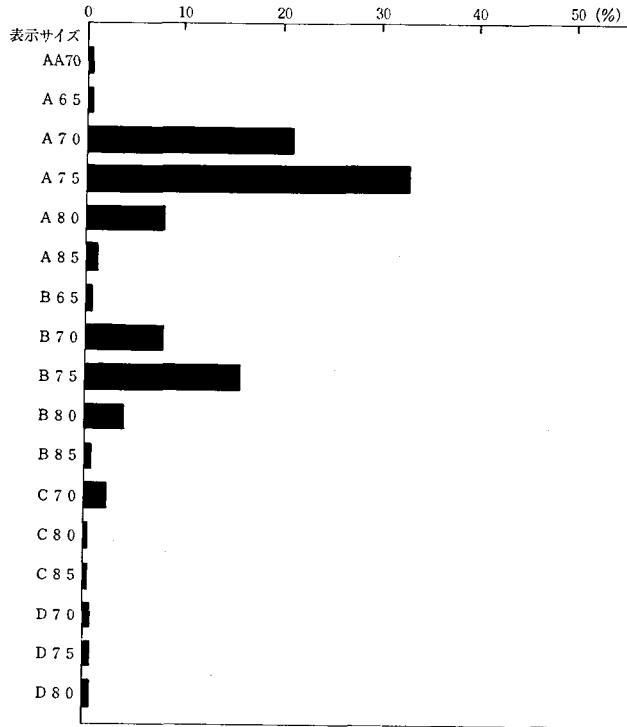


図2 着衣表示サイズ

③適合度

現在着衣しているブラジャーの適合度について該当する番号をチェックさせた。

結果は図3に示す通りである。「適合している」が46.3%、「やや適合している」が48%、「不適合」が5.7%であった。そこで、「不適合」と答えた者に不適合部位の回答を求めたところ、「アンダーバスト部位がきつい」、「肩ひもがつれる」、「前中心が浮く」、「胸に圧迫感がある」、「脇の部位がくい込む」等の苦情がみられた。

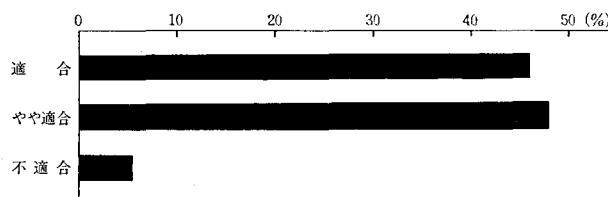


図3 適合度

④購入時

ブラジャー購入時の①場所、②ブランド、③試着については、図4に示す通りである。

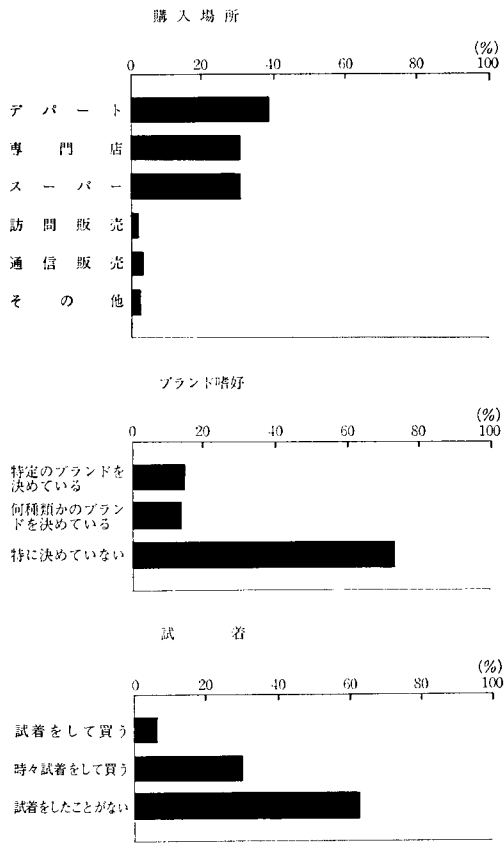


図4 購入時

①「購入場所は主としてどこか」という質問に対して、大部分の者はデパート、専門店、スーパーと回答している。被験者が学生であるためか現在のところ訪問販売、または、通信販売を利用することも少ないように思われる。その他で問屋からの購入が3%もあった。これは、問屋の中に個人消費者を受け入れる業者のあることを示している。

②「ブランドを決めて購入しているかどうか」という質問に対して、「特に決めていない」者が殆んどで、「特定のブランドを決めている」者が13.7%に過ぎなかった。

③試着については、「試着をしたことがない」が63%もあった。「試着をして買う」者がわずか7%、「時々試着をして買う」者が30%であった。これによってわかるように、下着に対する試着購入者は、まだまだ少ないようである。

⑤着衣時

「あなたはブラジャーをどの程度つけていますか」という質問に対する回答は、図5の通りである。毎日着衣するものが90.8%で、そのうち33.5%の者は就寝時も着衣している。反面、外出時しか着衣しない者が8.4%いることがわかった。

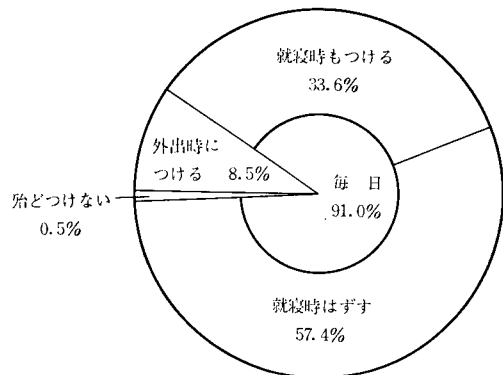


図5 着用時

⑥着衣目的

着衣目的については、複数回答を求めた。結果は図6に示す通りである。主な目的は、「エチケットのため」が65.5%、「形を整えるため」が64.3%、「揺れを防ぐため」が44.5%であった。また、「バストアップのため」、「バストを大きくみせるため」、「バストを小さくみせるため」等、補正を目的とする回答が34%みられた。

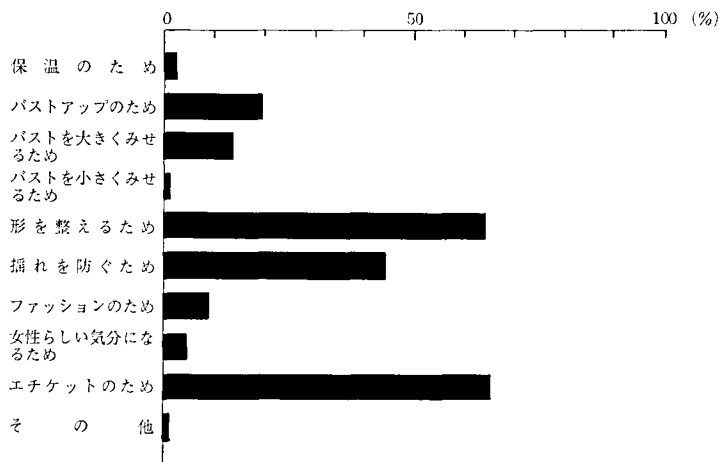


図6 着用目的

⑦所持枚数

所持枚数は図7に示す通りである。5枚～9枚の所持者が最も多く96%であった。

⑧着衣開始年齢

着衣開始年齢は図8に示す通りである。着衣開始年齢は、身体の発育状態にもよるが、12才までが約30%、13才で約80%と急速に着衣率が増加し、14才では96%になり、16才までにすべての者が着衣していることがわかった。

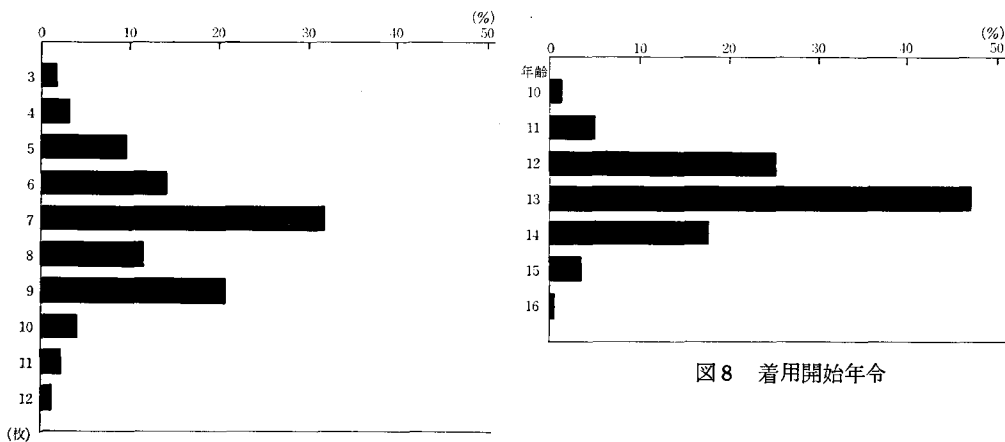


図8 着用開始年齢

図7 所持枚数

⑨ J I S サイズ認識度

「J I Sで決められているブラジャーのサイズ(表1)を知っていますか」という質問に対して、「知っている」者はわずか8.8%、「知らない」と答えた者がなんと91.2%で、殆どの方がJ I S規格についての認識に欠けていた。また、「あなたのカップ体型(AA・A・B・C・D・E)は、何を基準に決めましたか」の質問に対し、「バストとアンダーバストの差」が15%、「店員さんに計ってもらった」が16.2%、「試着して決めた」が7%で、他は無回答であった。

表1 J I Sサイズの種類と呼び方

カップ体型	意 味
AAカップ体型	アンダーバストとバストとの差が7.5 cm内外の体型。
Aカップ体型	アンダーバストとバストとの差が10 cm内外の体型。
Bカップ体型	アンダーバストとバストとの差が12.5 cm内外の体型。
Cカップ体型	アンダーバストとバストとの差が15 cm内外の体型。
Dカップ体型	アンダーバストとバストとの差が17.5 cm内外の体型。
Eカップ体型	アンダーバストとバストとの差が20 cm内外の体型。

AAカップ体型

呼 び 方		AA65	AA70	AA75	AA80
基本身体寸法	アンダーバスト	65	70	75	80
	バスト	73	78	83	88

Aカップ体型

呼 び 方		A65	A70	A75	A80	A85	A90	A95	A100	A105	A110
基本身体寸法	アンダーバスト	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110
	バスト	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120

Bカップ体型

呼 び 方		B65	B70	B75	B80	B85	B90	B95	B100	B105
基本身体寸法	アンダーバスト	65	70	75	80	85	90	95	100	105
	バスト	78	83	88	93	98	103	108	113	118

Cカップ体型

呼 び 方		C65	C70	C75	C80	C85	C90	C95	C100
基本身体寸法	アンダーバスト	65	70	75	80	85	90	95	100
	バスト	80	85	90	95	100	105	110	115

Dカップ体型

呼 び 方		D65	D70	D75	D80	D85
基本身体寸法	アンダーバスト	65	70	75	80	85
	バスト	83	88	93	98	103

Eカップ体型

呼 び 方		E65	E70	E75	E80	E85
基本身体寸法	アンダーバスト	65	70	75	80	85
	バスト	85	90	95	100	105

<日本規格協会：日本工業規格 JIS・L4006—1980 ファウンデーション・ガーマント・くつ下類のサイズ，1980.>

3-2 被験者の自己申告寸法と計測寸法

アンケート調査①「自己身体寸法に対する認識」において記入された寸法を「自己申告寸法」とし、身体計測による寸法を「計測寸法」とする。

表2 被調査者の申告寸法と計測寸法

○自己申告寸法 (単位 cm: 体重 kg)

	\bar{x}	s	min	max
身長	157.6	4.6	146.0	168.5
体重	50.5	5.9	39.0	76.5
バスト	82.5	4.4	72.0	104.0
アンダーバスト	72.2	4.6	63.0	93.0

○計測身体寸法 (単位 cm: 体重 kg)

	\bar{x}	s	min	max
身長	157.5	4.7	144.6	168.5
体重	51.5	6.7	39.0	76.5
バスト	82.9	4.7	73.0	104.0
アンダーバスト	71.9	4.2	63.0	88.5

今回の調査に必要とするバスト、アンダーバスト、および、基本身体寸法として、身長、体重の4項目について、平均値 (\bar{x})、標準偏差 (s)、最大値 (max)、最小値 (min) は表2に示す通りである。

次に、自己申告寸法と計測寸法の差について、各項目別に度数分布を求めた。その結果は図9の通りである。図は、「自己申告寸法—計測身体寸法の度数分布」について示したものである。

まず、身長についてみると、77.4%が自己申告値と計測値が一致しており、認識度は高く、その差も±2cm程度で、他の項目に比べて低く、ほぼ正確な寸法を認識している。体重は自己申告値と計測値が一致しているのは59%であり、1kg少なく申告したものが18%、1kg重く申告したものが12%であった。全体としては、±4kgの差までみられた。バストは59%の者が自己申告値と計測値が一致しており、±5cmの差の範囲がみられた。アンダーバストは55.1%が申告値と計測値が一致しており、±6cmの差の範囲がみられた。この差は、ブラジャーの着衣上、着心地に大きな影響を与えるものと考えられる。

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

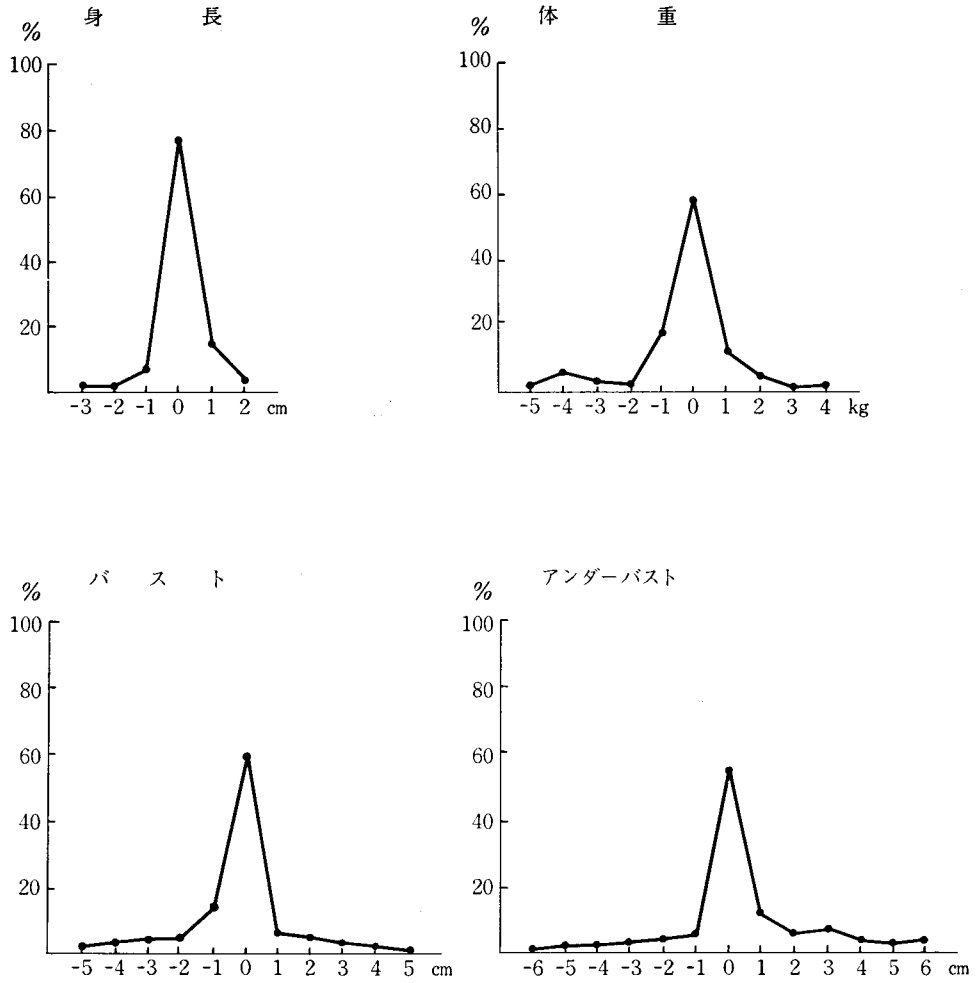


図9 自己申告寸法—計測身体寸法の度数分布

以上は、いずれも自己申告者（自己寸法の認識者）についてのパーセントであって、被験者全体からみた自己申告値と計測値の一致者は、身長では72.3%、体重は47.9%、バスト41.8%、そして、アンダーバストの30.8%である。とりわけ、ブラジャーの着衣適合度に重要なアンダーバストの一致者が $\frac{1}{3}$ にも及ばない点は問題というべきである。

3-3 着衣表示サイズとJISサイズ

「着衣表示サイズ」は、調査当日着衣していたブラジャーのサイズ表示である。「JISサイズ」は、計測寸法に基づき、表1の「JISサイズの種類と呼び方」に準じて、次のように分類した。

カップ体型については、アンダーバストとバストの差を求め、AA・A・B・C・D（Eは該当者なし）に分類した。また、計測アンダーバストの値63~67を〔65〕、68~72を〔70〕、73~77を〔75〕、78~82を〔80〕、83~87を〔85〕、88~92を〔90〕と表わし、JIS範囲とした。

「アンダーバストのJIS範囲と着衣表示」を図10に示した。

アンダーバストのJISサイズ（以下、JISとする）65では、着衣表示サイズ（以下、着衣表示とする）65を着衣する者は少なく、着衣表示70を着衣している者が多い。JIS70では、着衣表示70、または、75を着衣している。JIS75では、着衣表示75が83%あり、JISサイズと着衣表示サイズの適合率が高い。また、JIS80では、着衣表示70と75のいずれかを着衣している。JIS、着衣表示共に85と90は極めて少ない。

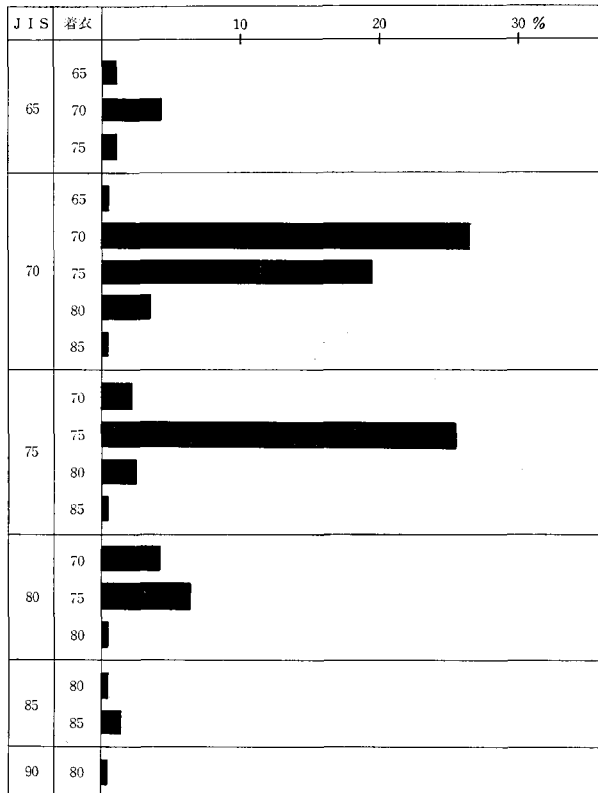


図10 アンダーバストのJIS範囲と着衣表示

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

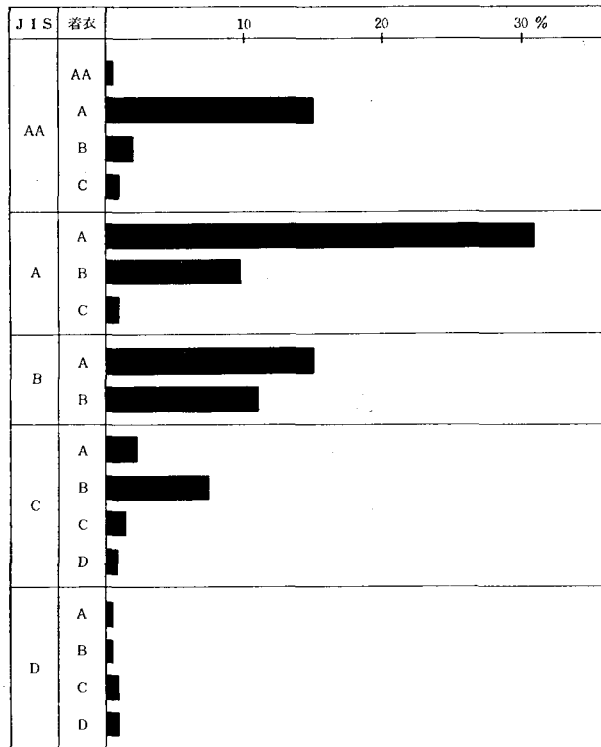


図11 カップ体型のJIS範囲と着衣表示

「カップ体型のJIS範囲と着衣表示」を図11に示した。JIS AAでは、着衣表示AAを着衣するものは0.4%と低く、殆んどの方はAを着衣している。JIS Aでは、着衣表示Aの着衣者が多い。JIS Bでは、着衣表示A、またはBのいずれかを着衣している。JIS Cでは、着衣表示Bが多く、A・C・Dの着衣者もいる。JIS Dは極くわずかであったが着衣表示では、A・B・C・Dと分散している。

以上の結果からみて、アンダーバストの着衣表示サイズは70と75で90%あり、カップ体型ではAとBで93.8%と、いずれも高い割合を示している。また、JIS 65で、カップ体型AAの小さいサイズでは、着衣表示A、または、Bの大きいカップ体型のものを着衣しており、JIS 80、または、90で、カップ体型C、または、Dの大きい体型では、着衣表示B、または、Aの小さいものを着衣するといった傾向がみられる。

図10と図11において、アンダーバストサイズとカップ体型を個々にJISサイズと着衣表示サイズについての出現率をみたが、次の図12では、JIS規格の「呼び方」に基づいて「JISサイズと着衣表示サイズ」の分布を示した。結果は、JISサイズでAA70が8.4%、AA75が7.1%、AA80が1.2%の適合者があるにもかかわらず、着衣表示サイズでは、AA70がわずか0.4%となっており、着衣表示AAを着衣している者は無きに等しい。ところが、JIS A70、A75、A80では37.4%の適合者があり、着衣表示サイズでは62.2%と、

むしろ、多くなっている。また、B75、B80においてもJISサイズより着衣表示サイズの方が多くなっている。

以上のように、AA、CではJISサイズよりも着衣表示サイズの方が低い比率を示し、一方、A70、A75、A80、B75、B80は、いずれもJISサイズよりも着衣表示サイズの方が高い比率を示している。

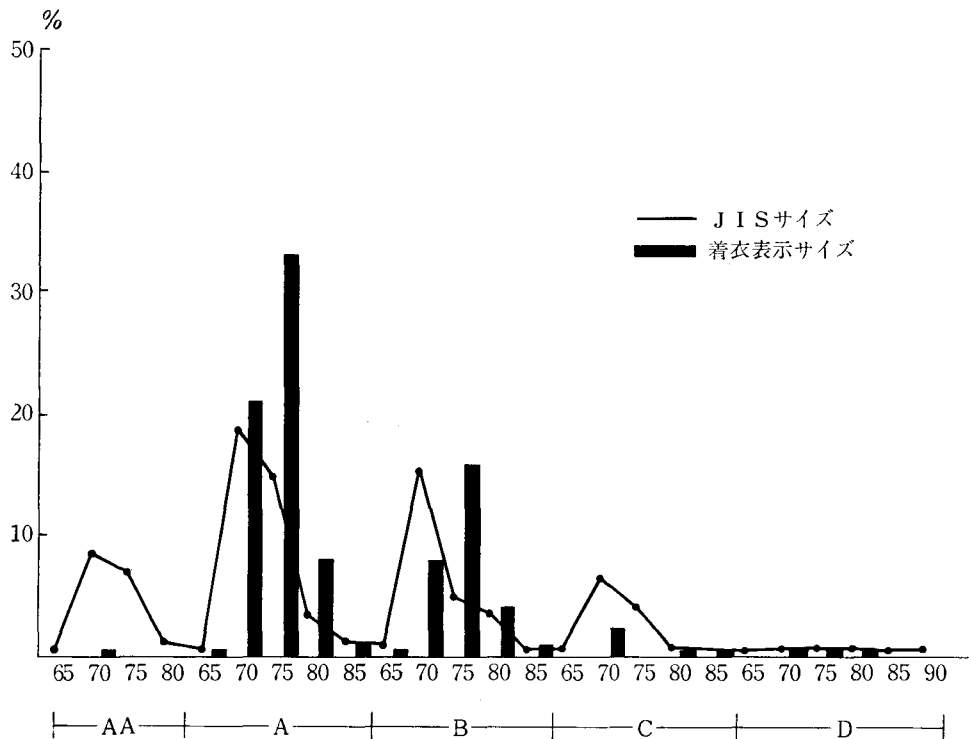


図12 着衣表示サイズとJISサイズ

図12において、着衣表示サイズの出現率の高いA70、A75、B75についてJISサイズの適合分布を示したのが図13である。

着衣表示A70では、JIS A70が47.9%あり、また、JIS70が77.1%とJIS Aで60.4%の適合率がみられる。着衣表示A75では、JIS A75が19.2%と低いが、JIS70とJIS75では90%となる。JISサイズにおいて、アンダーバストの間隔幅が5cmであることと、素材に伸縮性のあることなどを考慮すれば、70と75はアンダーバストの適合範囲に含まれるものとする。また、カップ体型では、JIS Aが42.5%と約半数の適合率がみられる。着衣表示B75では、JIS B75が8.1%と低いが、アンダーバストではJIS75で70%もあって適合率が高い。また、カップ体型ではJIS Bで24.3%と、アンダーバストに比べて適合率は低い。

身体寸法と既製衣料サイズに関する調査研究

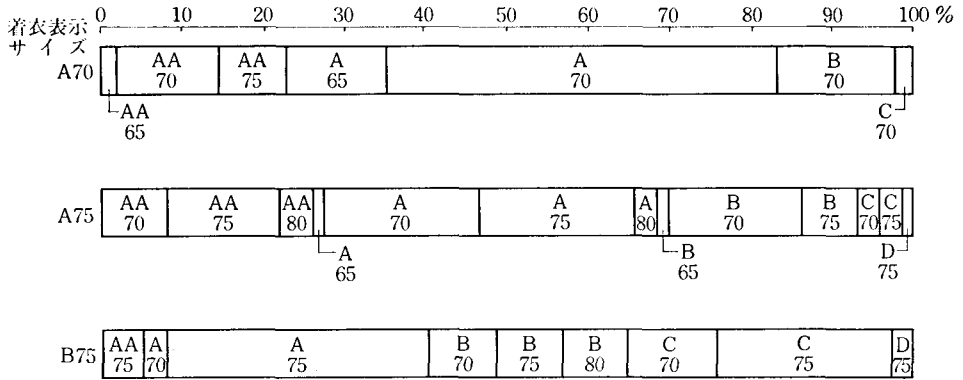


図13 着衣表示サイズ (A70・A75・B75) と J I S サイズの分布

3-4 J I S サイズと着衣表示サイズの相関

「J I S サイズと着衣表示サイズの相関図」を図14に示した。アンダーバストサイズにおいては、相関係数が0.6となり、高い相関はみられなかった。また、回帰直線 $Y=0.545x+34.58$ が求められた。カップ体型では、相関係数が0.46と、アンダーバストサイズより低い相関がみられた。

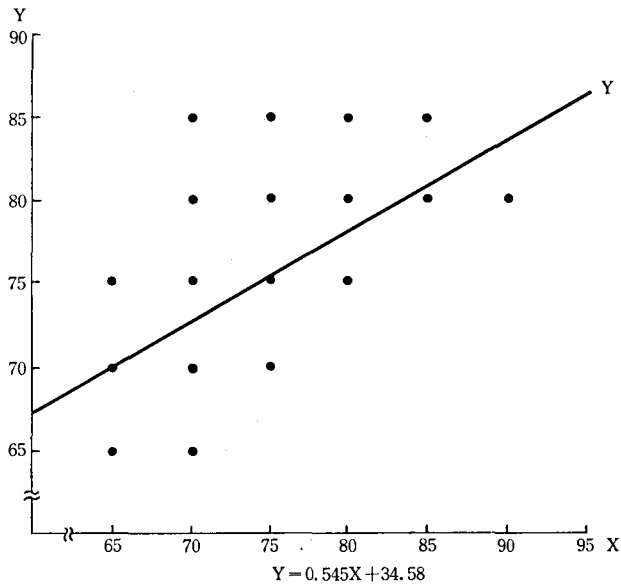


図14 J I S サイズ (X) と着衣表示サイズ (Y) の相関図

4 おわりに

今回は身体に最もフィット性を必要とするブラジャーについて、被験者の着衣実態の調査と合わせて、身体計測を行ない、各自の自己認識による着衣寸法と、着衣サイズ・JISサイズの関係について検討した。

ブラジャーは、16才までにすべての者が着衣しており、90%以上の者が毎日着衣していた。ところで、被験者の48%の者がブラジャーについて「不適合ではない」が、ぴったりとは合わないという不満を持っており、不適合者を加えると半数を越えるのである。その原因の一つには購入時の試着にあると思われる。「試着をして買う」者がわずか7%にすぎないからである。また、自己の身体寸法に対する認識度の低さ、とりわけ、ブラジャー購入時に必要なアンダーバストに対する認識度の低さである。これに加えて、JISサイズの無知者が90%以上もあり、更に、JISのカップ体型に対する質問に半ば以上の無回答がみられるなど、その無関心さは驚くばかりである。今後の消費者教育の大きな課題というべきであろう。

さて、消費者が既製衣料の購入に際して、自己の身体寸法や体型を把握していることが適合度の高い着心地の良い製品を入手する必須条件であることはいうまでもない。しかし、被験者の身体寸法の認識が多くは思いこみであることは、3-2・3-3・3-4において考察した通りである。自己の身体寸法、着衣表示サイズ、JISサイズを正しく把握し、思いこみ寸法によって合わない製品の購入をしないことが望まれる。

一方、JISサイズと着衣表示サイズにおいて、アンダーバストよりカップ体型に差が認められたことは、JISカップ体型の分類が、バストとアンダーバストの差によるところに問題があるのではないか。また、市販されている商品構成の比率の多少によって不適合製品の購入をよぎなくされているのではないかといった点などは、今後の検討課題と考えられる。

本研究にご助言を賜りました京都女子大学山名信子先生、ならびに、被験者の学生諸氏に深謝いたします。